

● 高山城略図



● おおくめ 大来目神社

神武天皇の東征に随行した肝付氏の祖先と行動を共にした大来目氏をご神体に城の鎮め神、守り神として建てた神社です。敷地内には肝付氏降伏後から330年後に地域住民が肝付氏を偲んで建てた大来目神社三百三十年祭の記念碑があります。



● 湯沸場

当時の姿のまま残っているとされている湯沸し場跡です。現在は木が目隠しをするように遮っていますが、当時は見晴らしがよく、監視にも一役買っていたのではないかとされています。

[こぼれ話] 栗山集落内で栗山川から城側のほうでは、昔から白いものや白い動物を嫌っていて、門松にシラスを盛ることもしなかったそうです。理由はわかりません。(福谷平さん談)



● 馬乗馬場

乗馬の練習や流鏑馬の練習をしたところだとされています。高山城跡に残る馬乗馬場は田んぼの脇を通っていて、畦を広くしたような形です。



● 一騎通し

馬一騎が通れるくらいの道幅しかない通路で、防衛システムのひとつです。鹿児島県には中世の山城が847あるそうですが、そのなかで一騎通しが記録にあって、現地が残っているというのは高山城だけで、貴重な史跡であるといえます。

見どころは？



本城出身「肝付ふるさと案内人」福谷平さん

高山城の特徴としては、一度も落城したことがないこと、今もほぼ昔の形のままだに残っていること、地形的に大変恵まれていることが挙げられます。とりわけ、県内で「一騎通し跡」が残っているのはここだけです。また、3つの川に囲まれた急峻な地形の場所ので、水が湧き出る水源地も城内にあり、守りやすくなっています。肝付氏は山城をつくるのに本当によい場所を見つけたと思います。高山城周辺の本城の人たちは肝付氏を大事に思っていて、肝付氏が島津氏に下った天正2年(1574年)から三百三十年後の明治37年(1904年)に大来目神社で三百三十年祭という祭りをして記念碑を建てています。高山城は本丸まで歩いてたどることができそうですのでぜひ見に行ってください。